

主な記事
 2・3面 2023都本部賃金確定闘争 (課題)
 平和フォーラム主催 第4回ピーススクール
 どうなる?改めて解説 地方公務員の定年延長
 自治労 臨時・非常勤等職員全国協議会/鬼木まこと国会報告
 コラム 組合員の結集へ 共感される活動を
 4面 私のおすすめ (自治労国分寺市職員労働組合 執行委員長 久野 智弘)
 第60回護憲大会/自治労「国際連帯救援カンパ」のお願い

自治労東京

千代田区飯田橋3丁目9番3号
 SKプラザ4階
 電話 03-3556-3755
 自治労東京都本部発行
 企画総務局
 責任者 松村 誠治
 編集者 須崎 崇文
 1部10円(但し組合員は組合費を含む)

2023 都本部賃金確定闘争

月例給・一時金、勧告通りも多くの課題残る

2023賃金確定闘争は、都労連は11月15日、市町職は16日、特別区は21日に交渉のヤマ場を迎えた。都本部は2023賃金確定闘争方針に基づき、東京地公労への結集と都労連・特区連との連携を強化し、早期29分時間内集会の戦術配置を背景に闘争を推進した。

都・区それぞれの闘争において、月例給・一時金の支給については勧告通りの実施で妥結となった。

都労連、特区連および東京清掃労組のヤマ場交渉は深夜に及んだ。月例給の引き上げ改定、一時金の支給月数の引き上げについては、都・区人事委員会の各勧告に基づく内容で妥結となった。勧告以外の部分については、東京都の闘争においては①業務職給料表の改定(行政職給料表(一)の改定を基本に全級全号給について引き上げ改定)②給料の調整額の改定(給料表の改定率を踏まえて引き上げ改定)③勤労手当の成績率の見直し(下位からの減額分6%から13%に変更)④育児時間の見直し(利用期間を拡大、会計年度任用職員にも適用)⑤「勤務間インターバル」及び「連続勤務の禁止」の見直し(勤務間インターバルの設定時間を8時間から11時間に変更)⑥災害休暇の見直し(取得要件を変更、会計年度任用職員にも適用)⑦勤労手当の導入(支給月数は一般職員における勤労手当の支給月数を適用)などを確認した。

特別区では、①業務職給料表の改定(行政職給料表(一)の引き上げと同率程度引き上げる)②職層構成の適正化の対応(原則、合格の翌年度当初から主査

2023賃金確定闘争 月例給・一時金の妥結内容(主なものを記載)

東京都 および 市町職	<p>月例給・全級全号給について引き上げ改定(平均改定率0.9%)</p> <p>・業務職給料表の改定(行一の改定を基本に全級全号給について引き上げ)</p> <p>・2023年4月1日から遡及</p> <p>一時金・0.10月分(再任用0.05月)引き上げ</p> <p>・勤労手当に配分、年間4.65月(再任用2.45月)</p>
特別区	<p>月例給・全級全号給について引き上げ改定(平均改定率1.0%)</p> <p>・業務職給料表の改定(行一の引き上げと同率程度)</p> <p>・2023年4月1日から遡及</p> <p>一時金・0.10月分(再任用0.05月)引き上げ</p> <p>・勤労手当に配分、年間4.65月(再任用2.45月)</p>

東京地公労は、11月6日に4年ぶりに都庁ふれあいホールにて「秋季年末闘争勝利!総決起集会」を開催し、地公労構成組織から約1000人が結集した。東京地公労の松村議長(自治労東京)は確定闘争の状況や公務職場の仲間の状況に触れながら、「公共サービス労働者が尊厳のある生活を送り、より良い労働条件や職場環境を獲得するためには、私たち労働者がたがたかかっていく以外に方法はない。自信をもって要求し最後の最後まで諦めずたたかったい」と述べた。集会には連合東京の吉岡会長代行も駆け付けた。

東京地公労 確定闘争の山場にむけ、都庁前に結集

約1,000人が結集



▲4つの梯団に分かれ約1000人が都庁外周をデモ行進

その後、各構成組織からの決意表明が行われ、都本部からは大塚悟司副委員長(自治労都庁職)が登壇し、「全級全号給での引き上げ改定となり、一時金は

等スタッフ職として任用する)③会計年度任用職員の給与改定時期(任期が3か月以内の者を除き、常勤職員の給与改定に準じる)とし、不利益改定の場合も遡及する)④会計年度任用職員の期末手当の支給月数(特例措置を実施し2023年12月に支給する期末手当の支給月数を1・3月とする)⑤会計年度任用職員の勤労手当の支給(支給対象は、任期が6か月以上)の者とし、支給月数は常勤

職員と同様とし、2024年度・2025年度に限り、成績率の段階ごとの分布率及び一律拠出割合を0パーセントとする経過措置を設ける)など多くの処遇改善につながる制度を確認した。

会計年度任用職員の賃金改定にかかる到達点

今闘争の大きな争点となっていた会計年度任用職員への勤労手当支給についても、それぞれの交渉において

2024年4月からの支給が確認された。一方で、給与改定の2023年4月からの遡及実施については、特別区では常勤職員の給与改定に準じることを確認したものの、都や市町職では厳しい結果となったが、2024年4月からの勤労手当の支給が確認されたことは、処遇改善にむけた一定の前進であるといえる。また、今年度の一時金の引き上げにかかる会計年度任用職員の一時金は、特別区では勤労手当引き上げ相当分を期末手当に配分し支給させることを確認した。

都準拠を基本とする市町職の交渉では、東京都の交渉で都側が態度を明らかに

動労手当での配分とし0.1月引き上げとなったが、初任給は未だ国を下回り、中高年層の引き上げ幅は不当に低く抑えられている。一時金においては再任用職員の支給月数が著しく低くされている問題に加え、勤労手当の支給が無く、常勤職員とともに懸命に仕事に取り組んでいる多くの会計年度任用職員の仲間たちの期待も裏切った。職員の奮闘に見合う賃金労働条件を確立し、全ての世代の生活が守られるようにしなければならぬ」と述べ、確定闘争を闘い抜く決意を表明した。集会後には、都庁包囲デモを実施。都庁周辺を1周するルートを行進し、賃金・労働条件のさらなる改善とたたか抜く決意を示した。

確認しよう、最低賃金!

事業者も、労働者も、お互いに。

東京都 最低賃金

1,113円

令和5年10月1日から

東奔西走

38年ぶりに阪神タイガースが日本一に輝いた。虎党の私もテレビ前から離れることなく歓喜に酔いしれたが、最も心を揺さぶられたのは岩崎投手とともに胴上げされた背番号24のユニフォームだ。背番号24、7月に28歳の若さでこの世を去った横田慎太郎さんのユニフォームが現役選手とともに宙を舞ったのだ。2013年ドラフト2位で入団、将来を嘱望されながら脳腫瘍の影響で約5年間のプロ生活をもって引退を余儀なくされた。引退後も病魔と闘い続けたが、ついにその生涯を終えた。人生をそして生活をかけたプロスポーツの世界において、現役選手たちが彼のためにプレーしたわけではなく、一人ひとりが心の中に彼の存在を置き、「ともに闘った」のだと思う。少々強引な結びつけかもしれないが労働組合も執行役員だけが、組合員のために闘うのではなく、全組合員とともに闘っていく、それが最も重要なのではないだろうか。(西岡)



シネマジャーナル
編集者
穂曇 萌

『デイス・マジック・モーメント』 旅する映画監督リム・カーワイと巡るミニシアターの旅

監督：リム・カーワイ



●2023年11月25日(土)よりシアター・イメージフォーラムほか
☎03-5766-0114

リム・カーワイは大阪を拠点に香港、中国、バルカン半島などを舞台に映画を作り、どこにも属さず彷徨う「シネマドリフター(映画流れ者)」を自称するマレーシア出身の映画監督。2022年、コロナ禍のミニシアターを進行する自主映画監督を主人公に描いた『デイス・マジック・モーメント』が、閉館や営業停止に悩む中、大阪のシアター・イメージフォーラムが決まり、いとも立って

「独立系ミニシアター大国」。しかし、ミニシアターと言っても、その成り立ちや経営は多種多様。家族経営、クリーニング店兼映画館、市民がつくる映画館、文化財として観光名所になった映画館等々。日本全国のミニシアターを訪ね、劇場を支える人たちの思いに耳を傾け、見えてきたものは…。共通するのは「映画が好き」「映画館が好き」という思い。

全国22館のミニシアターを巡るリム・カーワイ監督のインタビュー映像とともに、取り壊された首里劇場や、全焼し再建中の小倉昭和館の跡地など、貴重な映像が盛りだくさん。

「大阪大学に留学してはじめて訪れた映画館であるシアター・イメージフォーラム。日本にはこうしたミニシアターが数多くあり、私は日本のミニシアターで浴びるように映画を観ました。ミニシアターが、私の映画監督人生をはじめたきっかけをくれたのです」とリム・カーワイ監督。



『ボッチャ体験のすすめ』

自治労国分寺市職員労働組合 執行委員長

久野 智弘

「ジャックボールブリーズ」のコールから始まるスポーツ「ボッチャ」をご存知でしょうか。パラリンピックの正式種目で、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白ボールに、赤・青のそれぞれ6球のボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競うスポーツです。当初は、脳性麻痺などにより運動能力に障害がある競技者にむけて考案されました。簡単に言うと、ボッチャは地上のカーリングのような競技です。誰でもできて楽しめるスポーツですが、とても奥が深く老若男女問わず、はまってしまっている人が意外と多いです。現在、多くの方に親しまれているこの競技と私が出会ったのは、東京オリンピック・パラリンピックの開催される約1年前に、東村山市スポーツ推進委員としてニュースポーツ体験会に参加したときでした。当時の北多摩地域では、まだそれほど普及しておらず、最初の頃はボッチャの社会人チームを招いて色々と学びました。私も、すぐに面白



●出身県 東京都
●組合歴
2015年～書記次長
2017年～会計
2018年～書記次長
2023年～執行委員長

さにはまりました。「6BOX」は、3人で投球順や白ボールの落とし所等戦略的に考えることが楽しいですが、思いどおりになりません。ボッチャは、頭と身体を使うので健康に良く、日常生活において重度・重複障害児(者)と健常者が一緒に楽しめるのです。年齢や性別、障害の有無に関係なく楽しめるユニバーサルスポーツです。是非ボッチャを体験してください。

「国際連帯救援カンパ」にご協力ください

2023年5月、戦争、紛争、暴力や迫害などにより、故郷を追われた人は約1億1000万人に達しました。世界の74人に1人が故郷を追われています。そのうちの40%が子どもです。難民として生まれた子どもの数は、年間38万5000人。どこで生きることも、子どもたちは学ぶ場所が必要です。



- 500円 で購入できるもの
- スーダン産 教科書 10冊
- ミャンマー産 大人用10本 / 44ノート10冊
- ウクライナ産 18本入のペン1セット / 1冊 / ボールペン2本

自治労の「国際連帯救援カンパ」は1991年に始まり、これまで難民救援や児童労働禁止のキャンペーン、途上国の子どもたちの生活と教育の支援などに活用してきました。2024年度のテーマは「どこで生きることも子どもたちに学ぶ場所を」です。スーダンでの紛争、ミャンマーでの国軍による市民弾圧、ロシア軍によるウクライナ侵襲により、多くの人々が生まれた土地や祖国を追われ、移住や越境を余儀なくされています。ひとりでも多くの子どもたちに学ぶ機会と場所が提供できるよう、国際連帯救援カンパの取り組みをお願いいたします。

- 集約日
第1次集約：2024年1月8日(月) 第2次集約：2024年4月8日(月)
- 目標額
目標設定はありませんが、毎年「ワンコインの支援」を合言葉に組合員の皆さまのご協力を呼びかけています。
- カンパ集約方法
組合事務所を通じてご協力をお願いいたします。

憲法理念の実現をめざす第60回大会(護憲大会)

改憲勢力の暴走を食い止める 将来の世代のために行動を

11月11日～13日、新潟県新潟市において平和フォーラムの呼びかける第60回護憲大会が開催され、全体で約14000人が参加した。全体会では「憲法審査会の現実と今後の私たちの取り組み」をテーマにシンポジウムが行われた。コネテイナーに古屋学院大学教授の飯島滋明さん、パネリストに衆参両議院で憲法審査会の委員を務める新垣邦男、打越さく良、杉尾秀哉、吉田晴美各議員の参加により、衆参両議院における憲法審査会の審議状況や今後の動向などについて報告された。改憲勢力は憲法審査会の開催頻度を増やし、改憲ありきの議論を押し進めており、「憲法審査会は最早もな議論ができていない」と各パネラーは指摘した。そのうえで、立憲民主党が野党第一党として憲法審査会の暴走をなんとか食い止めている状況であり、日本維新の会が野党第一党になってしまうと改憲にむけ、一気に議論が進むことが懸念されるとして、一層警戒する必要があることを指摘。全体で共有をはかった。

過去の歴史的事実を踏まえ、日本国憲法には戦争や武力行使を認めない徹底した「平和主義」が採用されていることが、同じ過ちを繰り返さないという自他への意思表示となっている。しかし、自民党は自衛隊の憲法明記や緊急事態条項の導入などを中心とした改憲作業を、改憲勢力を巻き込んだ数の力により、国民の声を聞くことなく押し進めている。私たちだけでなく、将来の世代のためにも、こうした実態を適切に認識し、行動を起こし世論形成していくことが重要だ。



▲全体会の様子

岸まきこ

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan

参議院議員(自治労組織内議員)

声を力に、一歩前へ

自治労の
政策要求を
実現しよう!

とともに

岸まきこ 公式サイト
kishimakiko.com/
岸まきこ 検索

自治労は、第27回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」現参議院議員の擁立を決定しました。

岸まきこ(岸真紀子)プロフィール
1976年北海道岩見沢市(旧栗沢町)生まれ。94年旧栗沢町役場入職(現岩見沢市)。2013年から自治労中央執行委員。19年第25回参院選(全国比例区)で初当選。現職に至る。